

陳情第10号

観光文教委員会委員長の委員会運営姿勢及び市民に対する侮辱的発言に関する陳情

令和7年12月12日受理

陳情者



中 西 哲 也

【陳情の趣旨】

現在、奈良市議会観光文教委員会の委員長職にある柿本元気議員に関し、同委員会所属議員に対するSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）上での執拗な攻撃に加え、特定の市民（有権者）を「お茄子」等の隠語を用いて侮辱・中傷する発言が確認されています。

これらの言動は、委員会における公平・中立な運営を阻害するだけではなく、主権者である市民の尊厳を傷つけ、市議会全体への信頼を著しく失墜させるものです。

よって、議会として事実関係を厳正に調査し、政治倫理条例等の規定に基づき、委員長職の解任を含む、しかるべき対処及び再発防止策を講じるよう陳情いたします。

【陳情の理由】

柿本元気議員のSNS（X、旧Twitter）等における一連の言動は、以下の4点において、公職にある議員としての倫理及び資質を著しく欠いています。

1. 市民（有権者）に対する侮辱・中傷行為

柿本議員は、自身の意に沿わない投票行動を取った市民や、意見を寄せた市民に対し、SNS上で「お茄子（おたんこなす等の意図と思われる）」という侮蔑的な呼称を用いています。さらに、「一生お茄子してたらよろしい」、「そんな票、全然惜しくない」、「票にグルメな議員ですので」等、有権者を愚弄し、切り捨てる発言を公然と繰り返しています。

これは、地方公務員法及び日本国憲法が求める「全体の奉仕者」としての自覚を欠いており、市民への重大な背信行為と言わざるを得ません。

2. 委員長の役割である「公平性・中立性」の欠如

委員会委員長は、議論の整理と進行をつかさどる「公正な審判」としての役割が求められます。しかし、柿本議員は自身が委員長を務める委員会の所属議員（へずまりゅう氏等）の質疑に対し、「無様な質問」、「職員に作ってもらったような原稿」、「議員として少しは働け」、「ダセーな」などとSNS上でやゆ、批判を行っています。

進行役である委員長が、特定の委員を敵視し、外部に向けて嘲笑する状況下では、公平な委員会運営は不可能であり、議会の中立性が保たれているとは言えません。

3. パワーハラスメントに対する委員委縮による議論の停滞

委員長によるSNSでの個人攻撃は、当該議員のみならず、ほかの議員に対しても深刻な「委縮効果」をもたらします。「委員会での発言が、委員長のSNSでさらされ、攻撃の対

象になるかもしれない」という心理的障害（心理的安全性への脅威）を与えることは、活発な意見交換や自由な討議を阻害し、ひいては市民の利益を損なう結果となります。

また、優越的な立場を利用して精神的苦痛を与える行為は、広義のパワーハラスメントに該当する懸念があります。

4. 「指導」と「攻撃」の混同

新人議員の質疑に未熟な点があるならば、委員長あるいは先輩議員として、議会の場や控室において適切な指導・助言を行うのが本来あるべき姿です。それをSNS等の外部に向けて暴露し、執拗に批判を繰り返す行為は、教育的な「指導」とは到底言い難く、個人的な感情に基づく「攻撃」です。これは議会の品位を汚す行為であり、委員長としての資質を疑わざるを得ません。

以上の理由により、奈良市議会が健全な議論の場としての機能と、市民からの信頼を取り戻すため、以下の項目について強く求めます。

【陳情項目】

観光文教委員会委員長による、市民に対する侮辱的な投稿及び所属委員へのSNS等を通じた批判行為について事実関係を詳細に調査すること。

上記行為が委員長としての公平性・中立性義務及び奈良市議会議員の政治倫理に関する条例に反していないか審議し、その結果を公表すること。

調査結果に基づき、委員長職の解任や辞職勧告の検討を含む厳正な措置を講じること。

全ての議員が委縮することなく、自由活発に発言できるハラスメントのない委員会環境を早急に整備すること。

以上